2026 年 11 月 17 日

DRIVING MAGIC × NATS 日本自動車大学校 Race Report

OHLINS CIVIC NATS 今シーズン初優勝！

ー 山野哲也、予選で会心のスーパーラップ ー



ENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第 7 戦 S 耐 FINAL 大感謝祭が、11 月 14 日～15 日の 2 日間にわたり富士スピードウェイ（静岡県）で開催された。72 号車 OHLINS CIVIC NATS は、金井亮忠・山野哲也・野島俊哉の 3 人で、今季の集大成となる一戦に挑んだ。

チームは木曜日の走り出しから好調で、3 人が揃って 1 分 52 秒台と競争力のあるタイムで連続周回。大幅なセット変更をすることもなく、車の仕上がりにチームは確かな手ごたえを得る。

14 日の公式予選では、A ドライバーの金井が 1 分 50 秒 985 をマーク。続く B ドライバー予選では山野が他車を圧倒するスーパーラップ 1 分 49 秒 651 を叩き出し、2 位に 0.749 秒差の差をつけ合算タイムは 3 分 40 秒 636。第 3 戦富士 24 時間・第 6 戦岡山に続き今季 3 回目となる ST-2 クラスのポールポジションを獲得した。

しかし翌 15 日の決勝は、朝から降り続く雨に翻弄された。レースは 12 時 30 分にセーフティーカー先導でスタートしたが、雨量は増す一方。3 周を完了した時点で赤旗が提示され、そのまま終了がアナウンスされた。レースは全車完走で成立し、順位はグリッドどおりに確定。ポールポジションからスタートした 72 号車が、そのまま ST-2 クラスの優勝を果たした。規定により、獲得ポイントはハーフポイントとなっている。

今季の 72 号車は、決勝中の度重なるトラブルに見舞われたシーズンだった。それでもチームは課題を一つひとつ解決し、最終戦ではついに今季初優勝。95 号車 TEAM SPOON と並ぶ 96 ポイント、ST-2 クラスランキング 3 位でシーズンを締めくくった。チームは 11 月 14 日、2027 年も車両と体制を継続して参戦することを発表している。この 1 年の経験はチームの財産として、毎年メンバーが入れ替わる学生たちにも受け継がれていく。来季こそ、王座奪還を目指す。

大会概要／レース結果

大会名	ＥＮＥＯＳ スーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第７戦 S 耐 FINAL 大感謝祭
日程	2026 年 11 月 14 日～11 月 15 日
ゼッケン　車両	No.72　OHLINS CIVIC NATS
ドライバー	金井亮忠／山野哲也／野島俊哉
予選結果／タイム	ST2 クラス 1 位／A:金井 1 分 50 秒 985 (3 位)　B:山野 1 分 49 秒 651 (1 位)
決勝結果	ST2 クラス優勝



山野哲也

「今回のマシンは常に高いパフォーマンスを見せてくれていた。予選結果にもタイムとして表れとても嬉しかった。決勝における競技団の判断はとてもよかった。レースの安全をナンバーワンプライオリティにしてくれた結果だ。多くのスポンサー企業やファンに囲まれた週末はとても有意義であり、感謝に堪えない。マシンは上り調子。2027 年のタイトル奪回に向けシーズンオフにしっかり準備したい。」



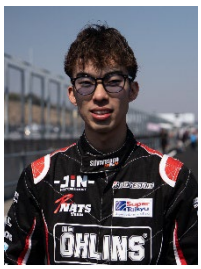
金井亮忠

「今回も初日から順調に進み、予選では 2 戦連続のポールポジションを獲得でき、チャンピオンチームの強さを示すことができました。決勝は天候不順により赤旗終了となり残念ではありますが、優勝というかたちで締めくくることができました。この勢いを来年につなげ、学生と共にチャンピオン奪還を目指して励んでいきたいと思います。」



野島俊哉

「今シーズンの最終戦を優勝で締めくくれて嬉しく思います。決勝でステアリングを握る機会はありませんでしたが、フリー走行～予選の結果から決勝でのパフォーマンスも期待できたのではないかと思います。最終戦を Pole to Win で締められたのは、学生メンバーを含むチーム全員の努力の証だと感じています。この 1 年で得たすべてを力に、2027 年は王座奪還に向け全力で挑みます。



豊福大樹

「赤旗終了という形でしたが、1 勝を挙げることができました。木曜日の走行から好調で、予選は狙い通りポールポジションを獲得でき、決勝の結果に繋がりました。前半は苦しんだシーズンでしたが、年間で 1 勝・3 回のポールポジション・ノーペナルティは来シーズンに向けてのいい流れが作れたと思っています。来シーズンはチャンピオン奪還に向け、全力で挑んでいきます。」